

東京の歴史と未来を探訪する 社会基盤コース

背景写真：墨田区公式ウェブサイト

中央大学研究開発機構客員教授
細見 寛



隅田川・日本橋川クルーズの見どころ

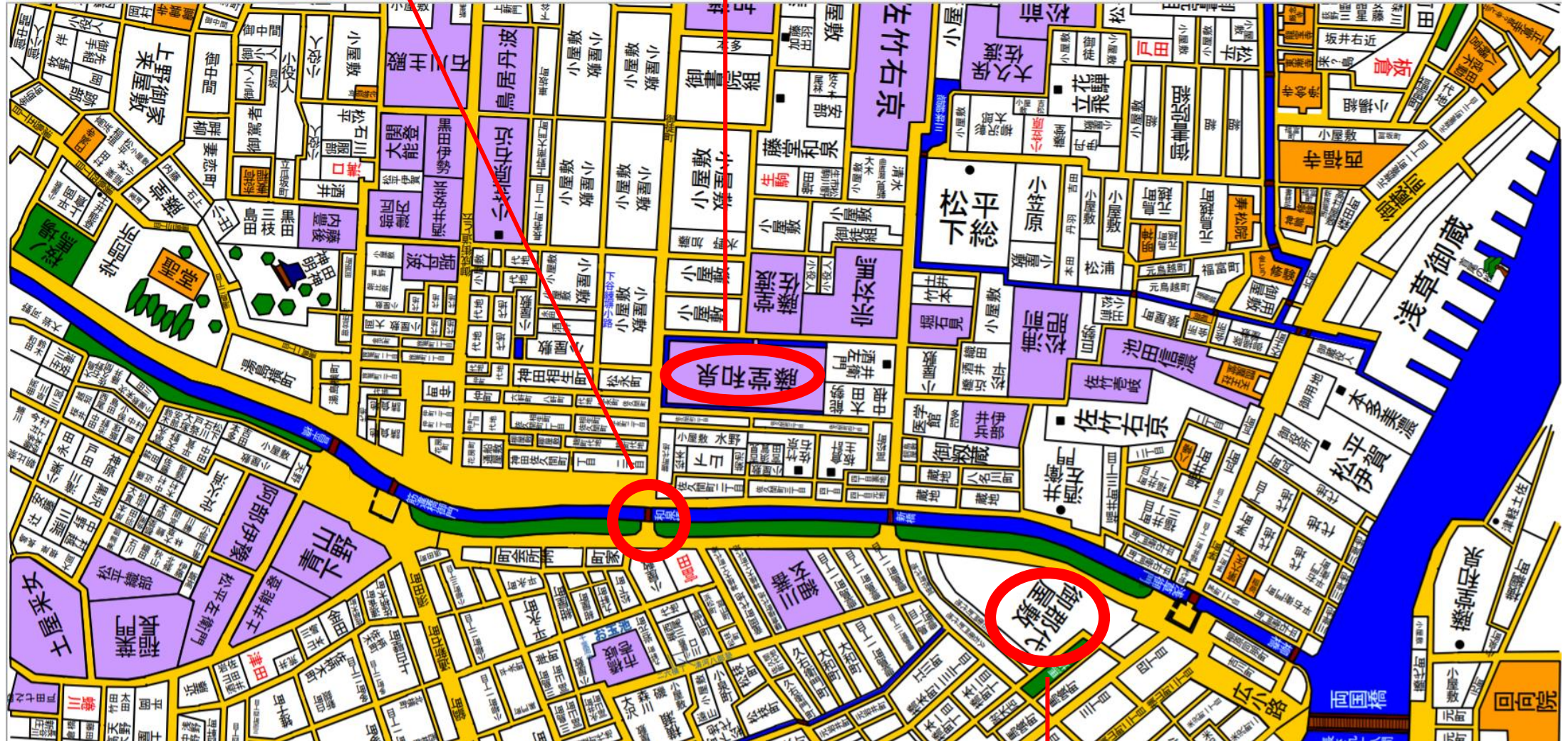
- ・江戸時代の遺構 後樂園、神田上水、江戸城の石垣、日本橋と五街道、明石町、佃、築地、浜離宮
- ・明暦大火＝両国橋、富士山噴火＝大山詣り、天明の大飢饉＝伊奈家の活躍とお家断絶
- ・近代化資産 常盤橋、国鉄日輪マーク、月島埋め立て(墨田川改修)、深川セメント工場跡、浅草火力発電所、蔵前ポンプ場、工業教育発祥の地
- ・関東大震災の復興
内務省復興7橋、東京市復興橋・豊海橋(福田武雄)ほか
和泉町のバケツリレー、日証館
- ・皇紀2600年祭(勝鬃橋)
- 1964年オリンピック後
- ・高速道路、大川端スーパー堤防、スカイツリー(生コン工場跡)、中央大橋メッセンジャー
- 20022年オリンピック関連
- ・築地大橋、選手村
- 進行中のイベント
- ・常盤橋再開発(トーチタワー)、日本橋地区再開発、築地再開発、気候変動対応高潮対策

新大橋 歌川広重「大はしあたけの夕立」ゴッホも模写

船上周遊 川からまちづくりを考える

- 神田川
- 日本橋川
- 隅田川

和泉橋の由来は、和泉守藤堂高虎の屋敷に近かったから



関東郡代屋敷

関東大震災 火災地区

バケツリレーで延焼を止めた和泉町・佐久間町



お茶の水駅の耐震工事



御茶ノ水駅附近／土砂及線路土留石垣崩壊外濠埋没ノ惨状
(線路ハ土砂崩壊ト同時ニ外濠内ニ決壊)

御茶ノ水付近は外濠(神田川)に沿う駿河台の崖を削って中央線の線路が通っているが、大震災で駿河台の崖が崩落し、神田川を埋め尽くした光景。擁壁の石垣・コンクリートと中央線の線路が対岸まで崩れ落ちた。この箇所は複々線化された現在も修復の跡がはっきり残っている。

(所蔵：山口雅人)

耐震工事後の完成予想図
(JR東日本HP掲載写真)



神田上水懸樋

下流から望む

明治初期



富嶽三十六景

「礪川雪ノ旦(こいしかわゆきのあした)」



東京ドーム辺り 葛飾北斎

名所江戸百景

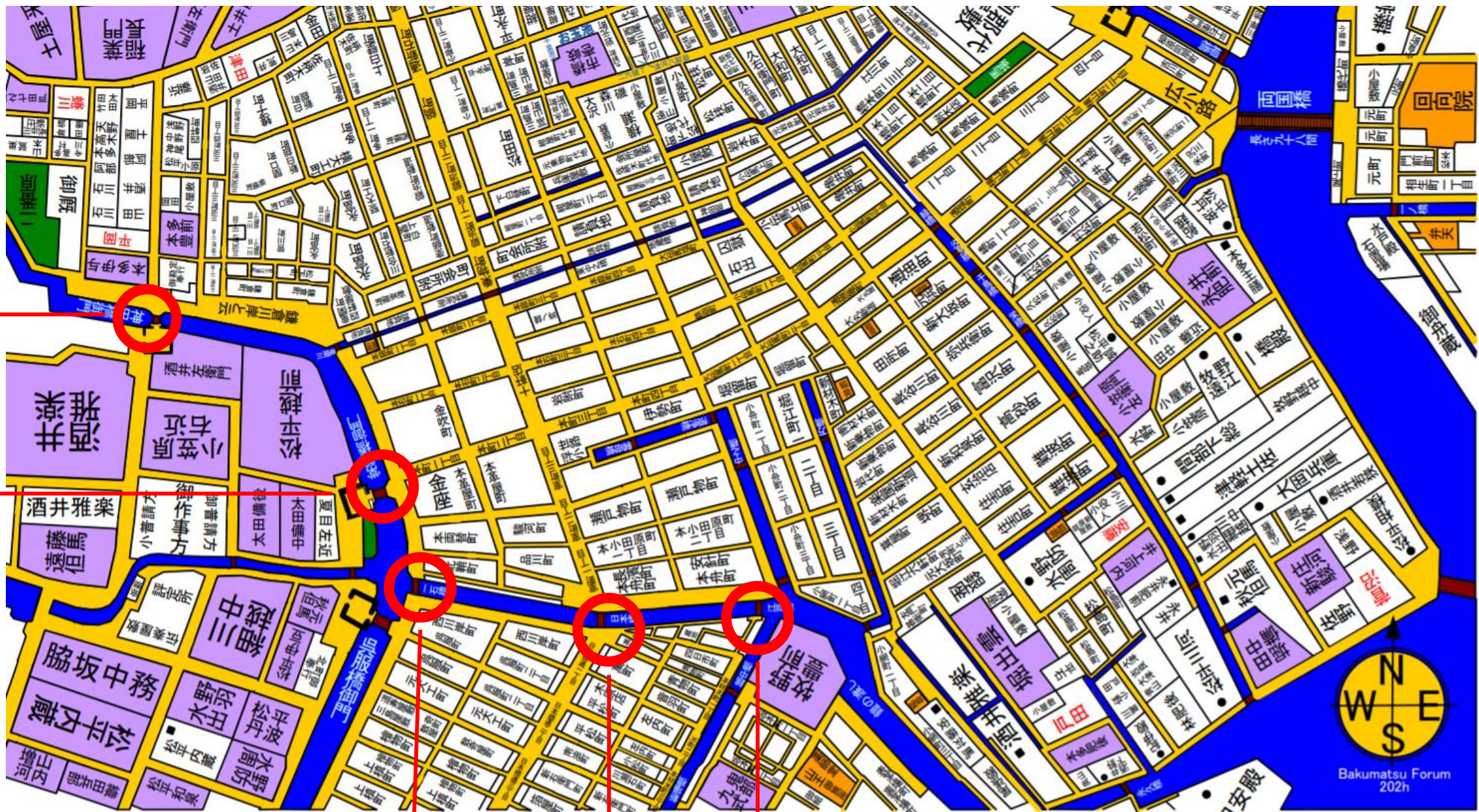
「水道橋 駿河台」



歌川広重

船上周遊 川からまちづくりを考える

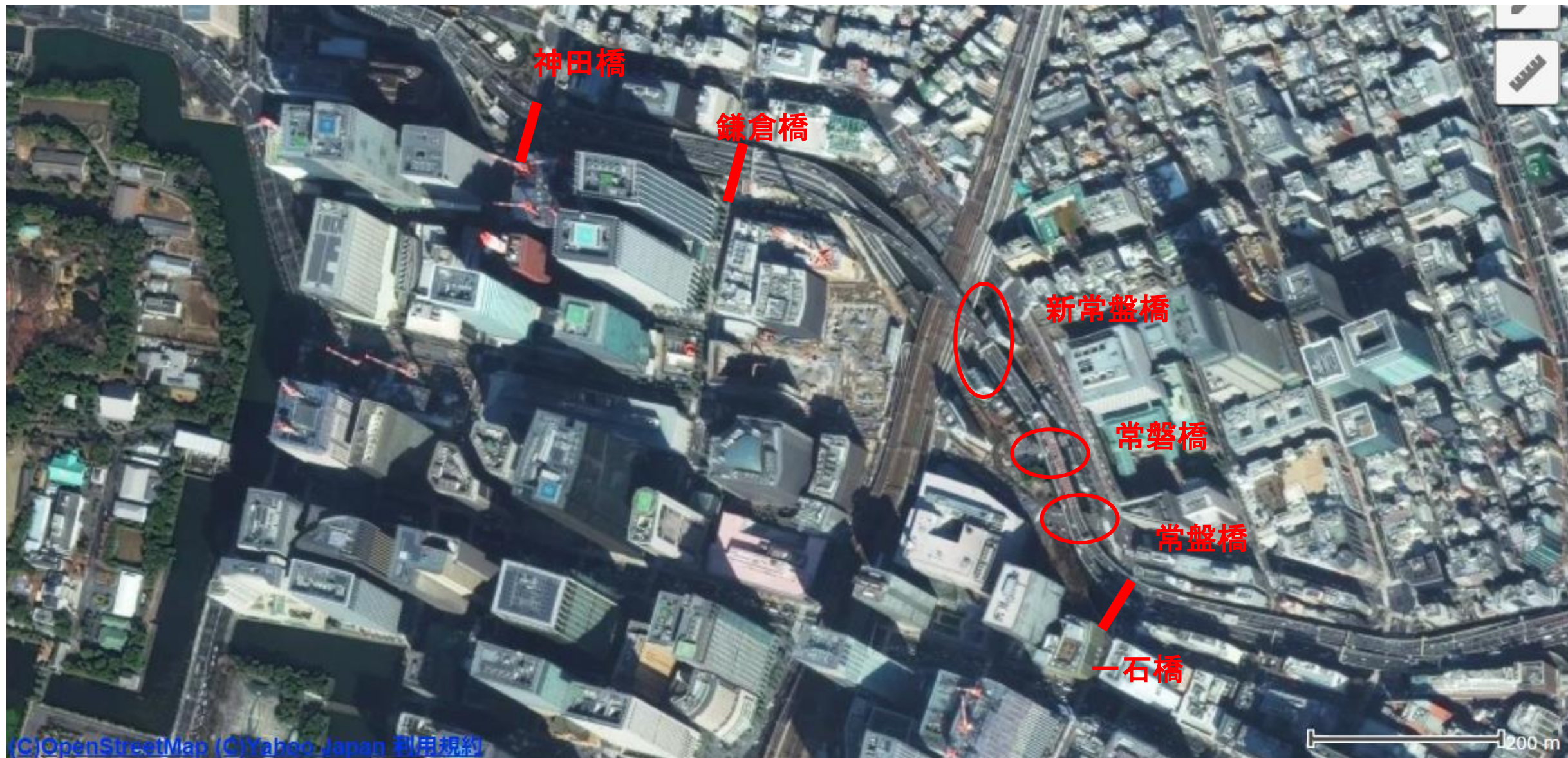
- 神田川
- 日本橋川
- 隅田川



一石橋

日本橋

江戸橋



上流から、①新常盤橋1988(S63)架橋、②常磐橋1877(M7)都内最古の石橋土木遺産1590創架、③常盤橋1926(T15)

主要施設と歴史



歌川広重 東海道五十三次 「日本橋」

火の見櫓は、町火消48組の「い」組

民謡「お江戸日本橋」

午前4時 京都が上方
お江戸日本橋七つ立ち 初上り
行列揃えて あれわいさのさ
こちや 高輪 夜明けの提灯消す
こちやえ こちやえ

日本橋は、江戸城へ納める魚の
余ったものを販売する許可が出
され、その魚河岸から発展した。

関東大震災で壊滅し、築地市場
へ移転

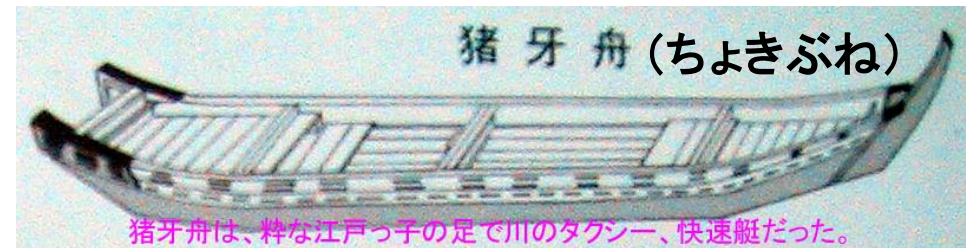
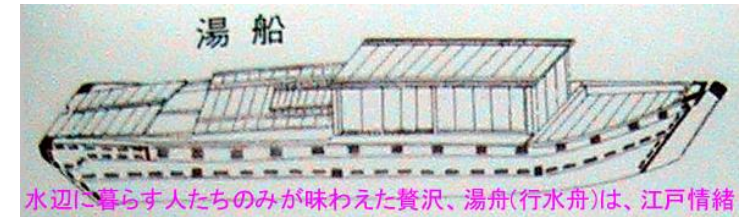
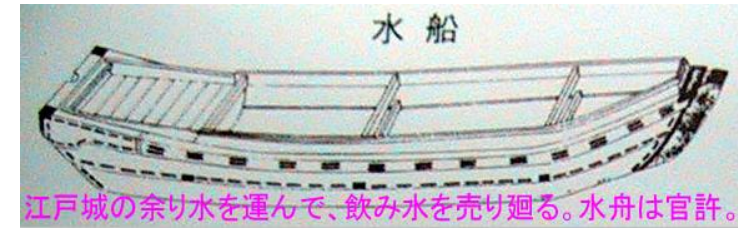
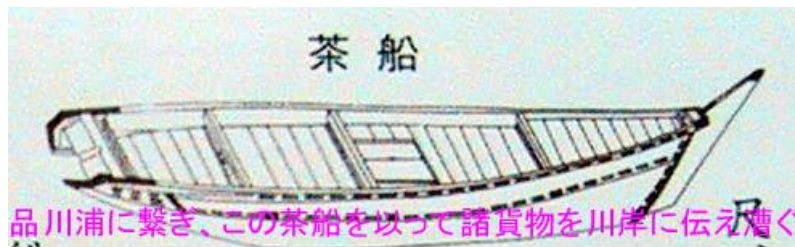
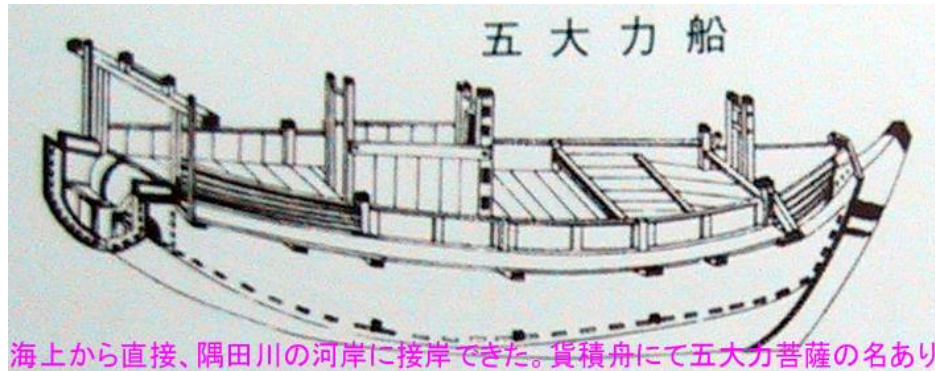
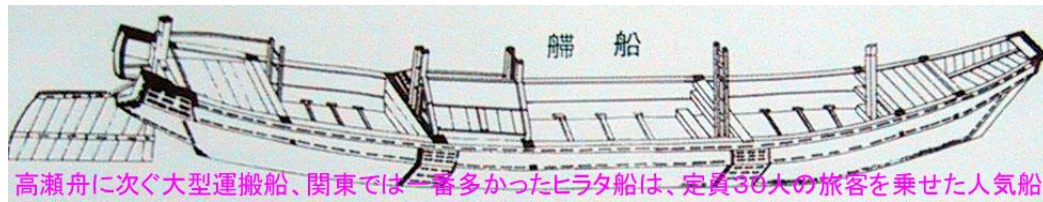
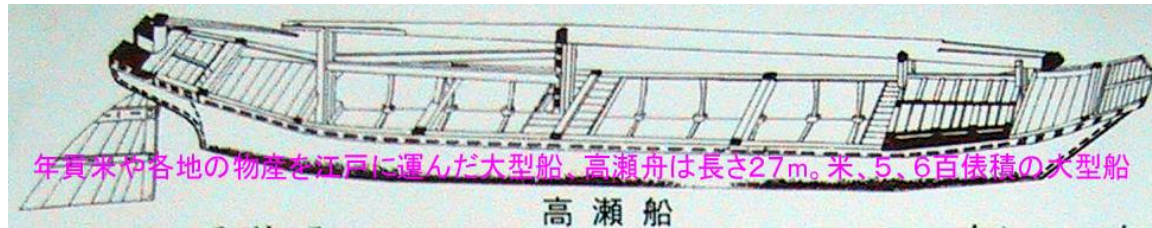


東海道五十三次 日本橋 広重

葛飾北斎 富嶽三十六景 「江戸日本橋」



江戸時代の運搬船



<http://park.geocities.jp/kytyn30/arakawa-unpansen.htm>より



猪牙舟と浮世絵

神奈川沖浪裏 富嶽三十六景 葛飾北斎



日本国道路元標



1594 千住大橋(墨田川) 伊奈忠次

1600 六郷大橋(多摩川) 1688 流失

1604 日本橋が、五街道の起点になる。

1659 道中奉行 勘定奉行と大目付が交互

船上周遊 川からまちづくりを考える

- 日本橋川
- 神田川
- 隅田川

帝都復興 隅田川復興六大橋

内務省復興局は、東京だけで130余りに及ぶ橋の設計を行うが、そのうち隅田川に架かる橋は、上流から、言問、駒形、蔵前、清洲、永代、相生の六橋である。

復興局は、大部分の橋に標準デザインを定めて設計作業の効率化を図る一方、この六橋に対しては全橋梁予算の三分の一を充て、デザイン検討に全力を注ぐ。隅田川の六橋は、新しい帝都東京を象徴するメルクマールとして位置付けられた。

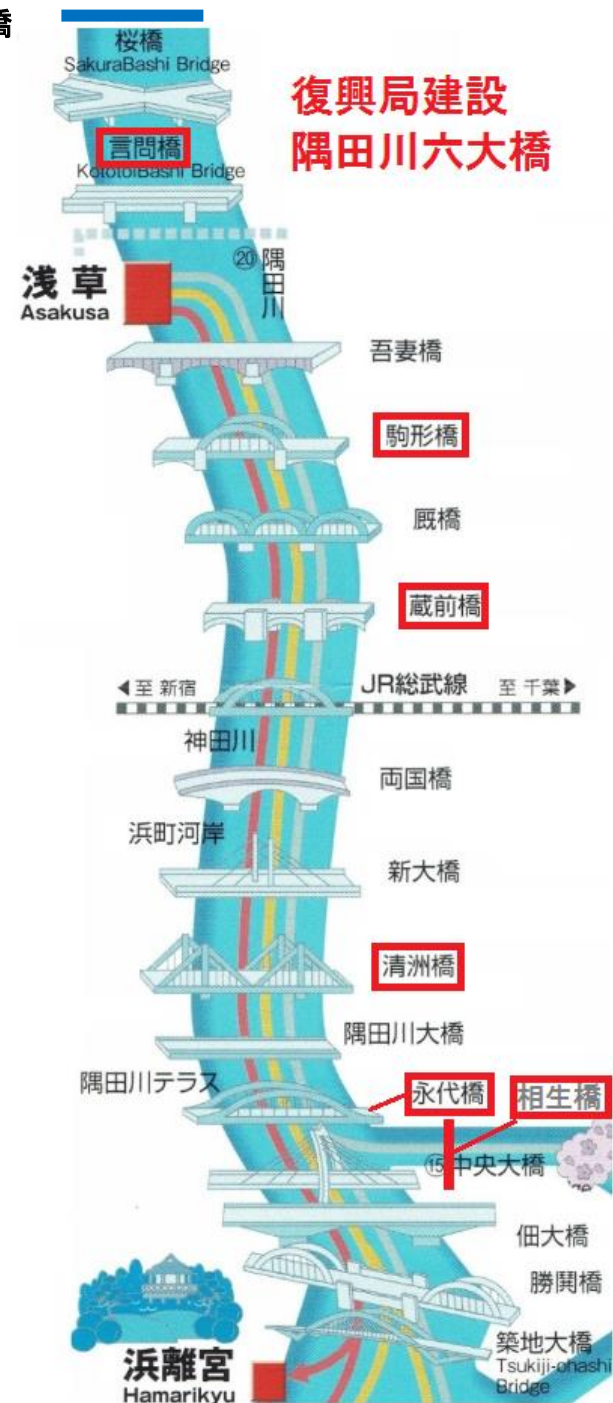
これらの橋をいかにデザインするべきか、当時かなりの議論があった。特に若い建築系の技術者の間には、橋梁は実用物であるから美術品を扱うがごとき造形意図を持ち込むべきではない、六橋は同じ形式に統一すべきであるという意見が根強く存在していた)。

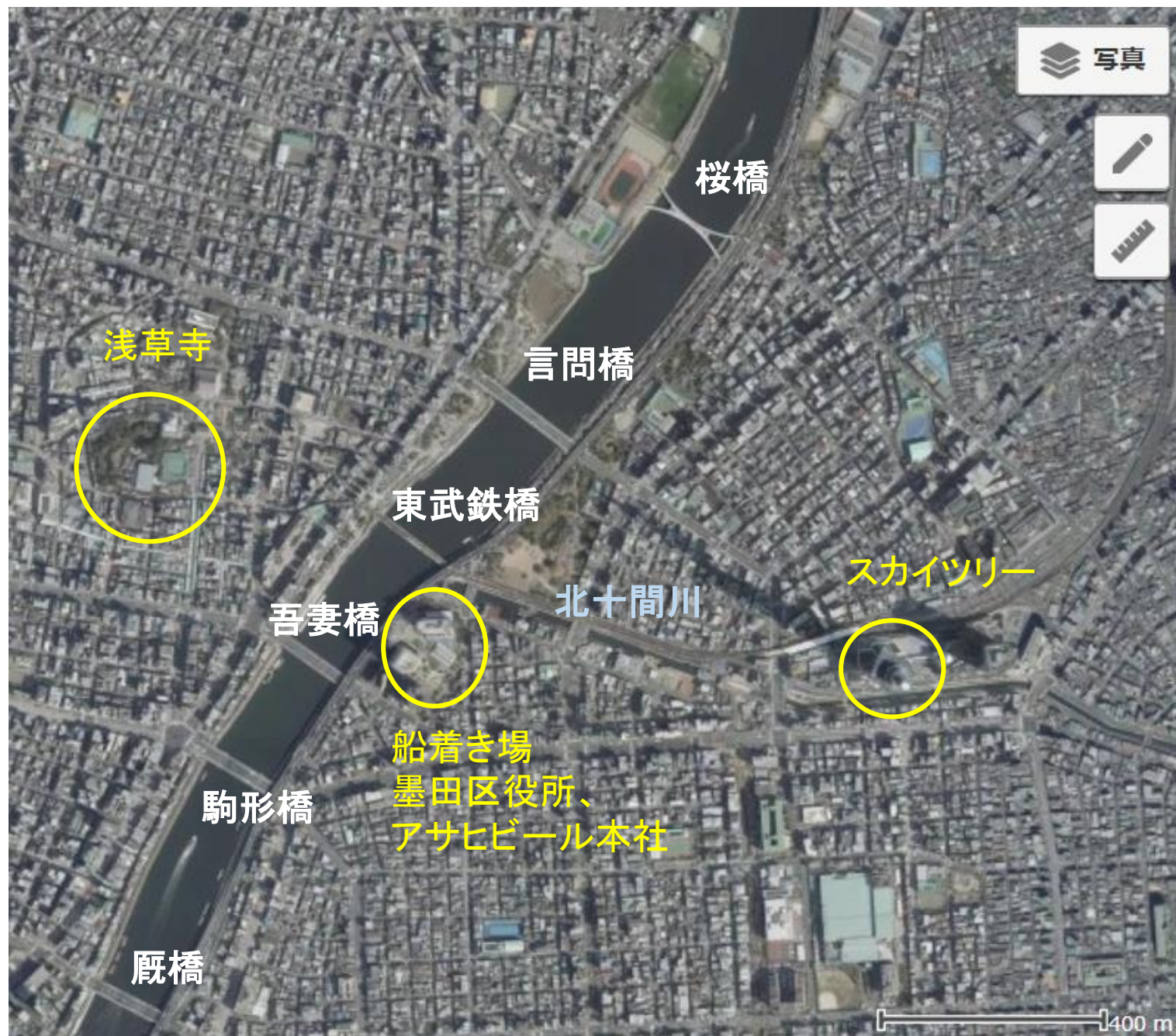
それに対して、復興局土木部長としてデザイン選定の任にあたった太田圓三と、橋梁課長の職にあった田中豊の二人は、六橋すべてに異なる構造形式を適用した。

東京府は、白髭橋を復興。

東京市は、吾妻橋、厩橋、両国橋を復興。

白髭橋





背景は、Yahoo 写真より





明暦大火



余談

河村瑞賢（湊橋付近に居住跡）は、明暦大火を聞くと同時に、木曾へ直行し、木材を買い占め、江戸に運んで、巨利を得た。

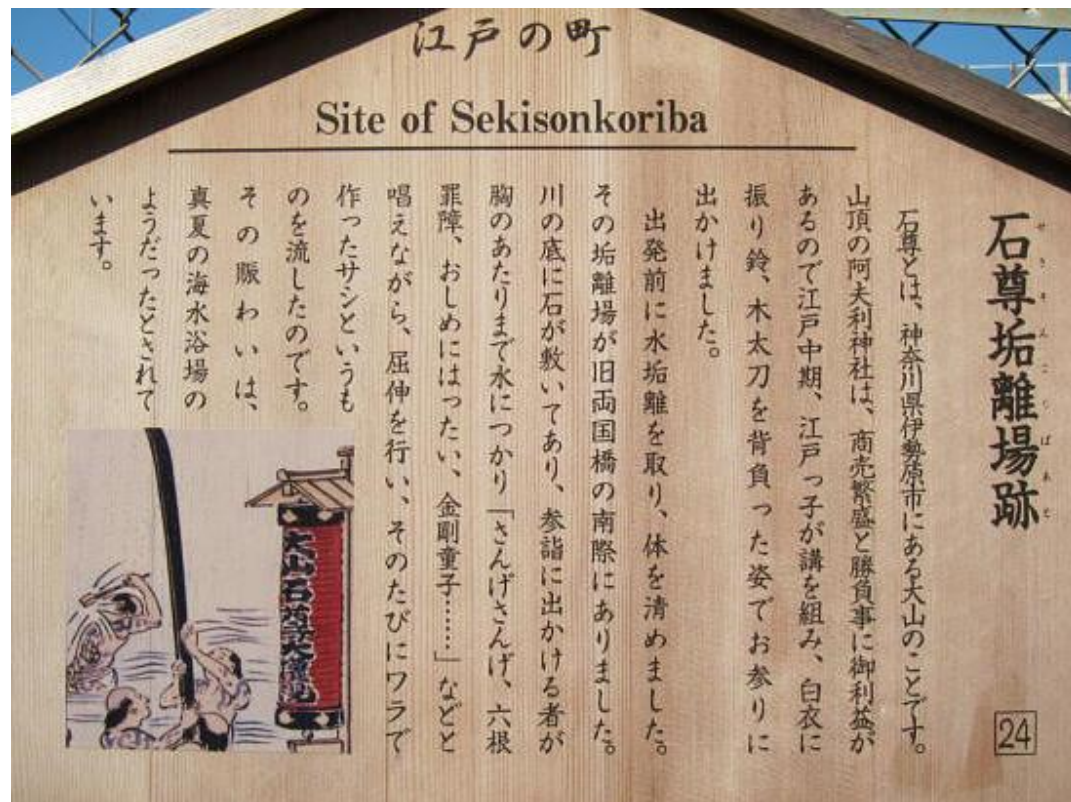
次に、幕府から、直轄領地の米を浅草御蔵へ廻送する業務を請け負う。これをスムーズに行うべく、西回り航路、東回り航路を整備した。

これにより、江戸の水運がますます発展したといえる。

Blog「しばやん日々」掲載資料



両国橋で水垢離して大山詣り



「どんぐりの大江戸ブログ」掲載写真

大山詣りは、鳶などの職人たちが巨大な木(き)太刀(だち)を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝である。

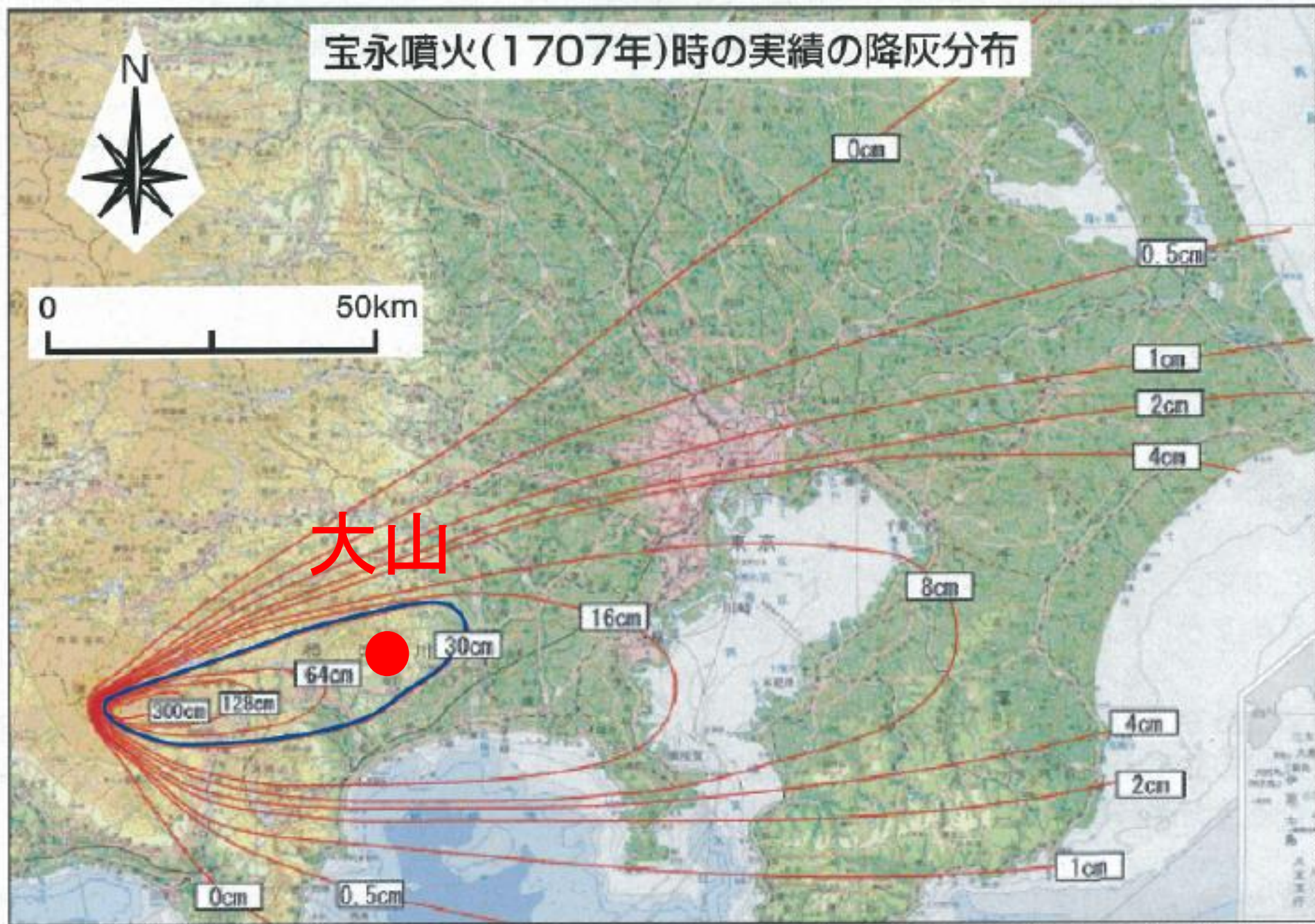
そうした姿は歌舞伎や浮世絵にとりあげられ、また手形が不要な小旅行であったことから人々の興味関心を呼び起こし、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れた。

平成28年に、
『江戸庶民の信仰と行楽の地
～巨大な木太刀を担いで
「大山詣(おおやままいり)」～』
が、日本遺産に認定。



東海道五十三次細見図会
程ヶ谷 戸塚へ二り九丁 道中風俗
広重作 横浜中央図書館蔵





冬に噴火した場合の降灰分布の例





横長写真は、HP「東京橋物語」、標準サイズの写真は、HP「隅田川の橋景色」

新大橋



最初の橋は元禄6年(1693年)に架けられ、隅田川で三番目の橋であった。現在の両国橋が大橋と呼ばれていて、これに続いて架けられたことから新大橋の橋名になった。浮世絵「大はしあたけの夕立」に描写された橋

明治45年、米国から輸入した鋼材で架け替

えられた橋は、関東大震災にも耐えた橋としても知られている。

昭和53年現在の橋に架け替えの際、古い橋の一部は、愛知県犬山市の明治村に復元され、また、レリーフは現在の橋に取り付けられています。橋台上部の歩道部分にバルコニーがある。鋼斜張橋



昔の新大橋は、現在より100m下流
名所江戸百景 大はしあたけの夕立



明治45年架橋された新大橋、震災でも持ちこたえ、「お助け橋」と呼ばれた

東京名所絵葉書
Wikipedia 掲載資料より

松尾芭蕉

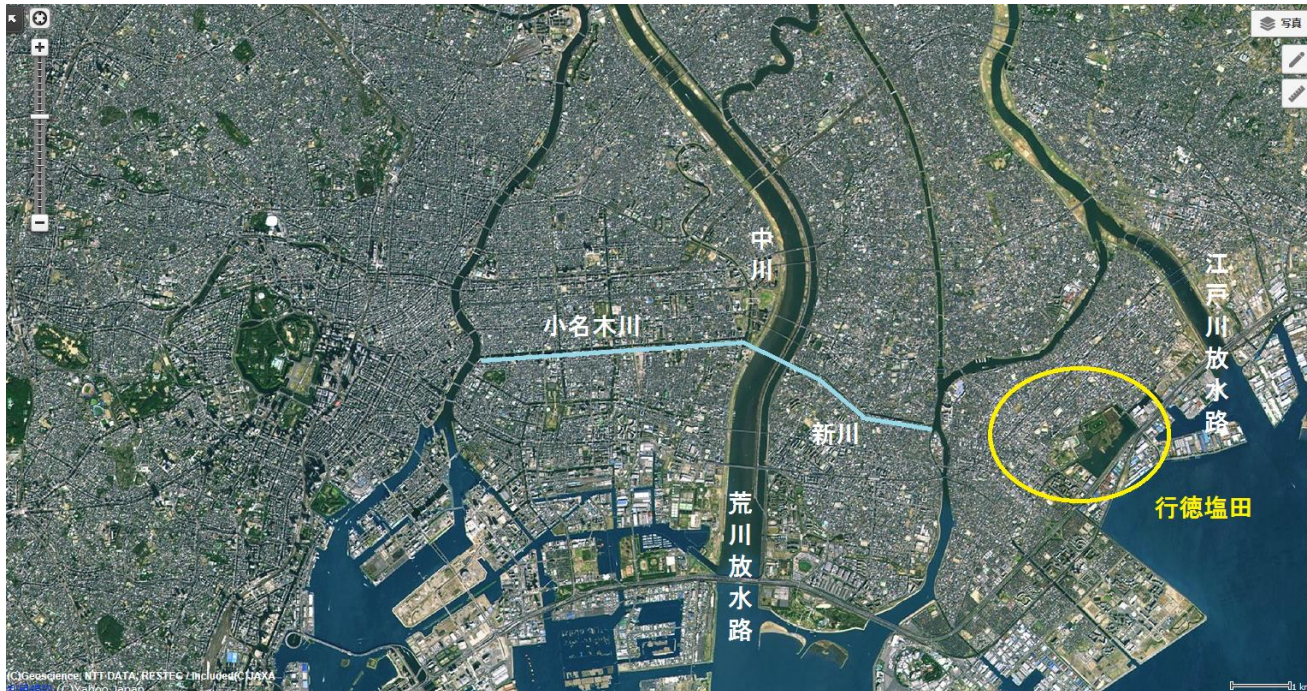
古池や 蛙飛び込む 水の音



小名木川



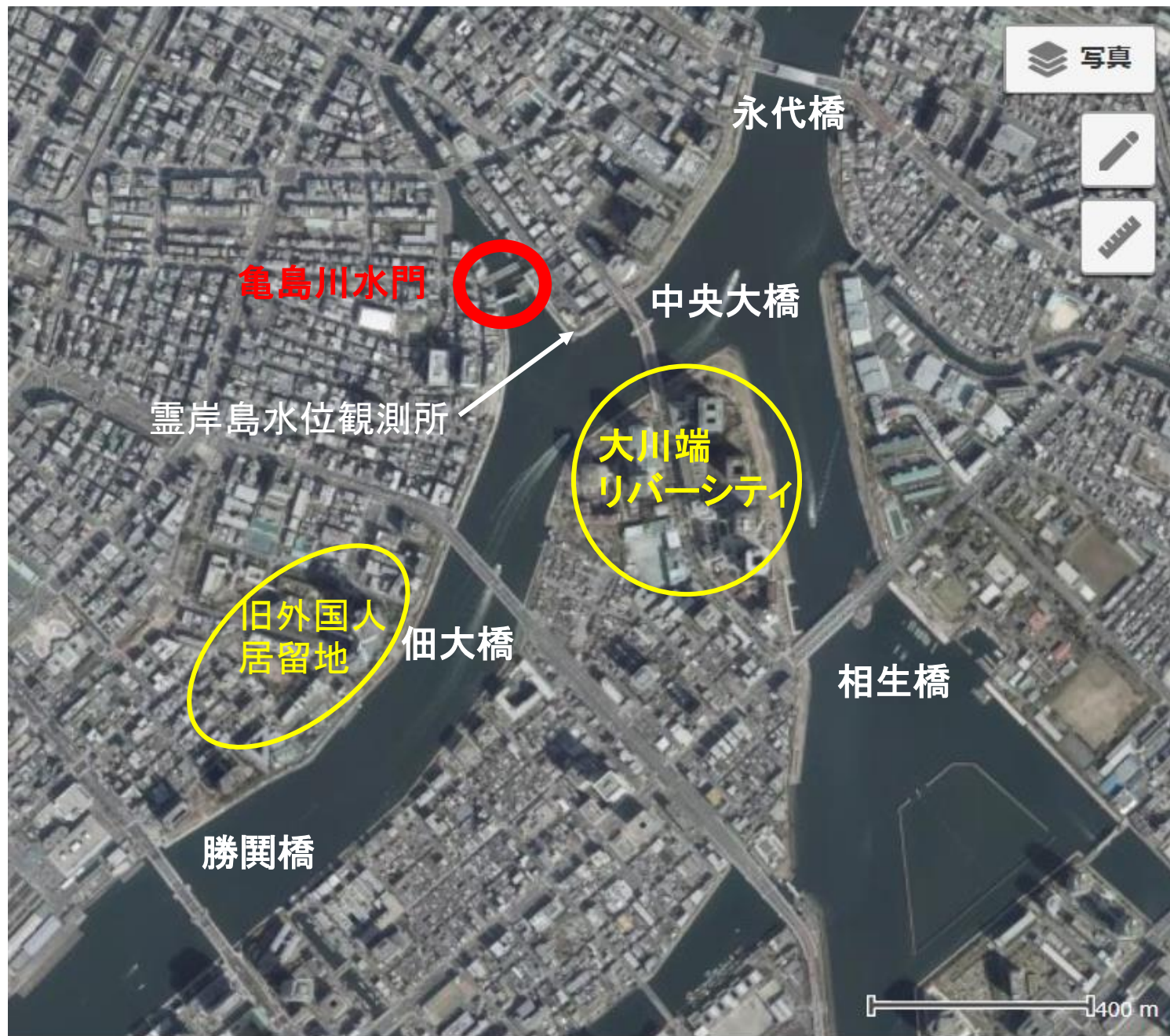
左絵: 名所江戸百景「深川万年橋」 歌川広重
右絵: 富嶽三十六景「深川万年橋下」 葛飾北斎



徳川家康が、江戸城に行徳塩田から塩を運ぶため、
小名木四郎兵衛に作らせた。

塩は、新川→小名木川→日本橋川を経て、江戸城に。



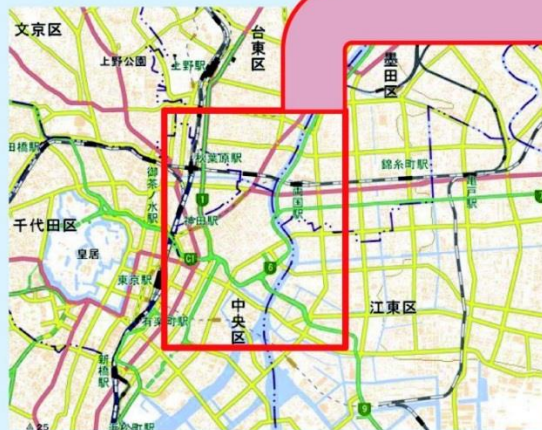
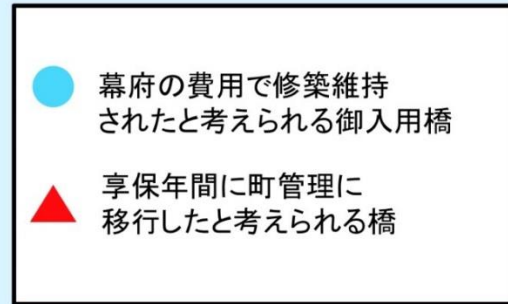


背景は、Yahoo 写真より



橋の民営化と、永代橋落橋(1807)

図表1-1-9 江戸時代における本所・深川地区の橋の民営化状況（享保期）

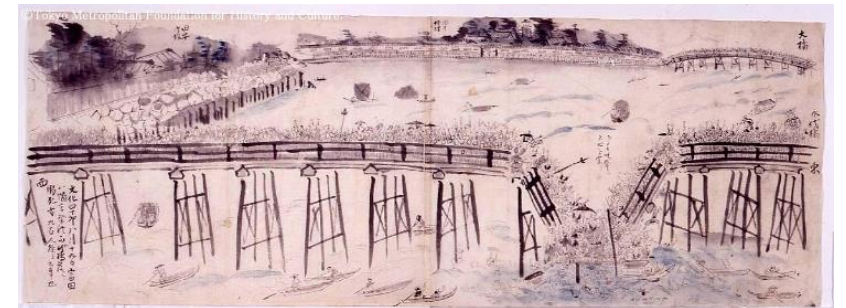


資料) 地理院地図(電子国土Web)



国土交通省HPより

文化四年八月富岡八幡宮祭礼永代橋崩壊の図
(江戸東京博物館所蔵)



中央大橋



横長写真は、HP「東京橋物語」掲載写真

パリ市紋章



たゆたれど沈まず(ラテン語)



HP「4travel.com」 東京橋巡り船ツアー 掲載写真

1993年(平成5)完成
隅田川は、フランスのセーヌ川と1989年(平成元)に友好河川を提携しており、中央大橋を架橋する際、フランスのデザイン会社に設計を依頼。主塔および欄干部分は、日本の「兜」を意識した特徴的な意匠となっている。上流側の中央橋脚部には、当時のパリ市長であったジャック・シラクから東京都に友好の印として贈られた彫刻家オシップ・ザッキン作の「メッセンジャー」と名づけられた彫像が鎮座する。彫像は川側を向いており、橋をくぐる水上バスからの方が見やすい。なお、このお礼にパリ市に「屋形船」を寄贈。



佃大橋



横長写真は、HP「東京橋物語」掲載写真

1964(昭和39)完成
隅田川最後の渡船場として320余年続いていた「佃の渡し」の位置に架けられた橋であり、上流に平行している永代橋、下流の勝鬨橋の交通量の増加、および1964年東京オリンピック開催に備えた関連道路の一部として、戦後初めて隅田川に架橋された。

築地は、1657年の明暦の大火によって生じた瓦礫などを使って「築き固めた土地」に由来。そこは伊勢長島藩増山氏上屋敷、備前岡山藩松平氏中屋敷、尾張名古屋藩中屋敷跡などが立ち並ぶ武家地だった。現在の明石町には忠臣蔵で有名な浅野内匠頭の屋敷もあった。

1858年(安政5)の日米修好通商条約により外国人の居留地を設けることを義務づけられ、幕府は、隅田川河口の武家地であった明石町を選び、明治元年に「築地居留地」が完成。築地居留地跡には明治35年アメリカの聖公会のトライスターが創立した聖路加国際病院が建っている。敷き内に、芥川龍之介の誕生を記した碑がある。



勝鬨橋(かちどきばし)

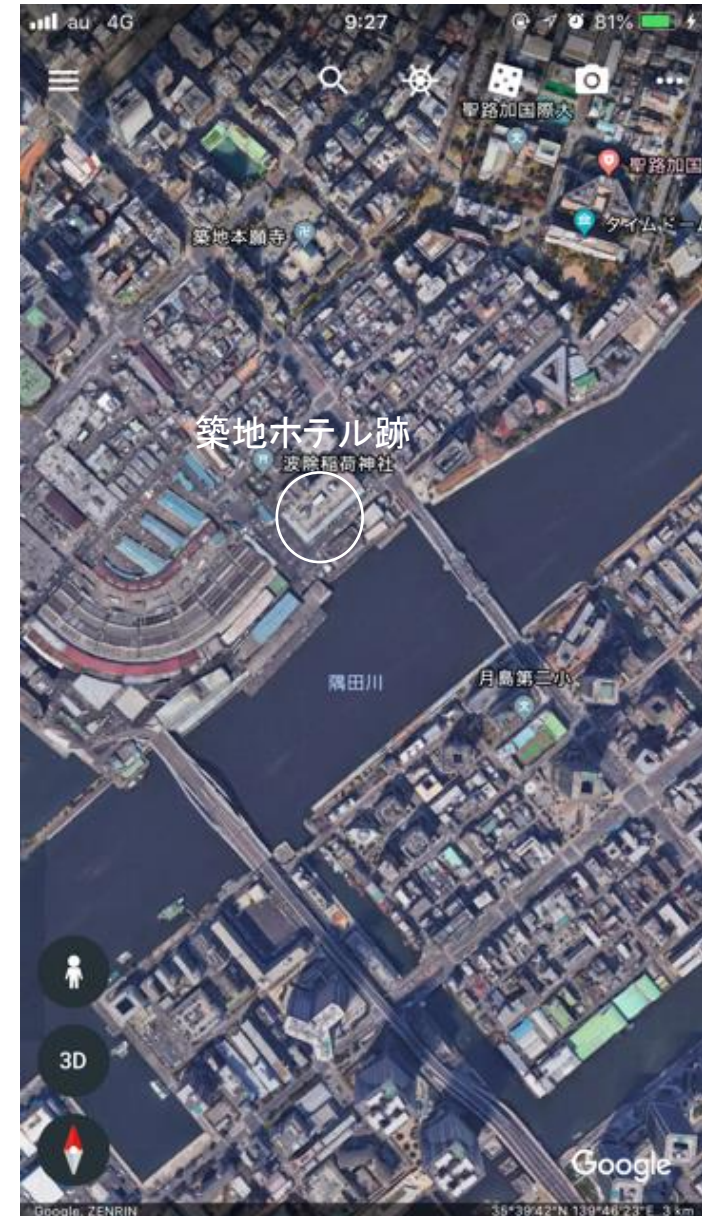


横長写真は、HP「東京橋物語」掲載写真 右上写真は、銭高組HP掲載写真

1905(明治38)1月18日に日露戦争における旅順陥落祝勝記念として、有志により築地と月島を結ぶ「勝鬨の渡し」が設置。この渡しに由来して「勝鬨橋」と命名。

勝鬨橋は1940年(昭和15)に国家的イベントとして計画された「紀元2600年記念日本万博博覧会」のメインゲートとして計画。1932年(昭和8)6月10日に着工し、資材が不足する中、7年をかけ、1940年(昭和15)に完成。

1868年(慶応4)、築地居留地の設立にあわせ、外国人向けのホテル「築地ホテル館」が完成。和洋折衷様式の築地ホテル館は日本初のホテル。清水組(現清水建設)が施工。4年後、銀座耐火により焼失。



築地地区まちづくり事業スタート

